

アクト

第8号

2009年 7月 15日発行

九州国立博物館を愛する会

新年度にむかって



理事長 前田 和美

愛する会は設立後二年を経過し、会員の皆様のご支援、ご協力のお陰で組織的に大きく成長しました。昨年度は「まちづくり」「ひとづくり」事業に取り組み多くの実績を残し、会員の皆様だけでなく、地域・市民・学校も巻き込んだ事業を展開しました。

特に、昨年九月には「第二回世界文化遺産と博物館を訪ねる旅」として、台湾の故宮博物院を会員三八名で訪問し、博物院の観覧、また台湾の人々との交流等、実り多い旅でした。また、本年二月には「九博子どもフェスタ」を開催し「子どもたちを博物館へ」―博物館って意外とおもしろいね―をテーマとして筑紫地区の多くの子どもたち(八千名)が参加し、楽しく遊び、学び好評を得ました。三月には、第十三回九博デー「過去から育む未来く九博のあるつくしの創造」を開催し、「愛する会」の特別顧問で「誘致する会」「支援する会」の会長を長く務めて頂き、昨年十二月に他界された有吉林之助氏の歴史を学び、今後の「愛する会」の活動のあり方を考えました。

本年度は、九博がこの地域の文化振興の中心になり、九州全域にネットワークを張り巡らせるような事業、そして例会の充実・子どもが参加できる事業・博物館情報のリアル発信の三点を重点事業として行なっていきます。何卒会員の皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

平成21年度通常総会

去る6月28日(日)、当会は、「平成21年度通常総会」続いて「懇親会」を開催しました。多くの方のご出席をいただき盛会に終了いたしました。これより21年度の活動に積極的に取り組んでまいりたいと思います。みなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

九州国立博物館では、話題の「興福寺創建1300年記念 国宝 阿修羅展」が、7月14日より開催されております。この阿修羅像の三面のお顔の表情が示すものや、興福寺からの搬出輸送の工夫などマスコミでも多く取り上げられ、阿修羅像の人気とあいまって、東京国立博物館での展覧会では97万人余の入館者だったそうです。特別展は一般的に後半になるほど入館者が多くなる傾向がありますし、今回は特に大変混雑が予想されます。9月27日(日)までの期間ではありますが、お早めにご観覧くださいませようをお願いします。

「九博を愛する会」 平成21年度 通常総会報告

去る、6月28日（日）午後3時より、太宰府館まほろばホールにて通常総会が開かれました。只今の会員174名のうち82名の出席者の中で、新体制が発表されました。

新体制発表

九博を愛する会「会則」の第3章 役員の項の第14条 役員の任期は2年間とする。をうけて役員の改選があり新体制が発足しました。

理事長をはじめ顧問の方々の挨拶があり。その後、監査報告として監事の福山漢治、前田利輔両氏から貴重なアドバイスをいただきました。

その主旨は

1. 法人会員を増やし、活動資金を確保できるようにする事。
2. これだけの役員が名を連ねている会としては、会員数の増加が2年で40人余というのはあまりにも少ない。特に4市1町といいながら、他の3市1町の会員数が極端に少ない。このあたりの会員の増加が望まれる。

というものでした。

その後会計報告。各委員会メンバーの紹介並びに各委員会の今後の抱負などの発表があり、懇親会へと移りました。

会員増強の一つの案として、参加型事業において参加者リストを作り、今後の事業に役立てる。理事長が常に言っておられる「まちづくり」「ひとづくり」の具体的な活動内容、愛する会ならではの企画をし、大きくアピールする事が大切。そのためにも、事業と財務の一体的な取り組みのため、事務局体制の確立を急がれたい。とのご意見でした、新役員の活躍に期待したいものです。

新人事は、理事長は留任。副理事長の深田さんと、味酒さんがしりぞかれ、深田さんは一般会員に、味酒さんは相談役に回られました。新たに佐藤さんが事業委員長から副理事長へ、川添さんが交流委員長から副理事長へととなりました。

専務理事の土師さんは留任。事務局長の吉村さんが例会委員長へ、代わりに野田さんが事務局長になりました。川添さんのあと、交流委員長には久保山さん、佐藤さんの後任に事業委員長として松岡さんが就かれました。

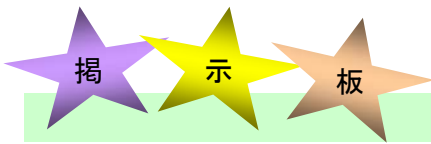
今年から広報委員会が事業委員会から半ば独立する形となり、広報の公正性、と客観性を確保できる事となりました。その委員長に西村さん、また例会委員会というものが新たに設けられ、例会の充実をはかる事になり、その委員長として吉村さんが就任されました。会員拡大のためにも、例会のさらなる充実が期待されます。アドバイザーの元永さんは異動の為しりぞかれ、新たに藤崎さんが就任されました。九博と愛する会が更なる盛り上がりを見せられるよう宜しくお願いします。また、顧問に寺崎さん任期終了のため、代わりに永田さんがなられました。顧問のお仕事宜しくお願いします。

（ S.F ）



そのほかは次の表のとおりです。

	新 人 事	前 任 者
理事長	前田 和美(留任)	前田 和美
副理事長	佐藤 敏子(前事業委員長)	味酒安則
〃	川添 廣志(前交流委員長)	深田重實
	青山博秋(留任)	青山博秋
専務理事	土師 修一(留任)	土師 修一
事務局長	野田 和宏	吉村美和
事務局次長	松大路 信潔(前副交流委員長)	堀 悠祐
交流委員長	久保山 辰巳(前副交流委員長)	川添 廣志
副委員長	堀 悠祐(前事務局次長)	岡村 陽一
〃	上田 節子(前副事業委員長)	久保山 辰巳
		松大路 信潔
事業委員長	松岡 良一(前副事業委員長)	佐藤 敏子
副委員長	今村 次代(留任)	井手 良治、今村 次代
〃	宮内 啓一	上田 節子、前田 勝一郎
〃	相川 紀子(留任)	松岡 良一、相川 紀子
〃		西村 一子、藤村 信一
広報委員長	西村 一子(前副事業委員長)	
副委員長	藤村 信一(前副事業委員長)	
〃	伊東 みち子	
例会委員長	吉村 美和(前事務局長)	
副委員長	前田 勝一郎(前副事業委員長)	
〃	岡村 陽一(前副交流委員長)	
監事	前田 利輔	前田 利輔
	福山 漢治	福山 漢治
相談役	光安 常喜	光安 常喜
	味酒 安則(前副理事長)	
アドバイザー	藤崎 秀典	元永 行英
	須川 一幸	須川 一幸
特別顧問		有吉 林之助
顧問	三輪 嘉六	三輪 嘉六
	西高辻 信良	西高辻 信良
	原田 義昭	原田 義昭
	楠田 大蔵	楠田 大蔵
	井本 邦彦	井本 邦彦
	井上 保廣	井上 保廣
	永田 義悟	寺崎 盛行



事業委員会

委員長 松岡良一

子供たちとの交流を楽しむ事業部活動

21年度総会で“九博を愛する会”は4年目のスタートを切りました。本年度の基本方針の一つに、「こどもが参加できる事業」とあります。私共事業部は特に「ピッカ美化隊活動」と「古都の光」「九博こどもフェスタ」等で、より多くの子どもたちとの交流を深めたいと考えています。

「おもてなしの心」で始めたピッカ美化隊活動は今回初めて、地域の元気な子供たちと一緒に花壇の植え替え作業に汗を流し、子供たち、保護者の皆様にも本当に喜んでいただき、その輪がもっと大きく広がるきっかけ作りになりました。今年の秋が楽しみです。賛助会員の皆様のご参加も大歓迎、気軽に太宰府駅でお声をかけてください。

今年4回目を迎える「太宰府古都の光」は九博・天満宮を始め観世音寺・水城跡等と次第に広がりを見せ、地域住民自らのお祭りとして少しずつ定着しつつあります。

ここでも愛する会のスタッフが作ったオブジェがメイン会場で昨年は好評を得ましたし、太宰府館での影絵「天神さまのものがたり」は子供たちのお祭りのイメージの中にぼんやりと残ったかもしれません。

今年も愛する会スタッフの皆さんの参加協力のもと推進してまいります。今年は昨年の実績を踏まえテーマをしぼり、子供たちに企画段階から参加を呼びかけ大人と一緒にオブジェを作り、影絵を作り演じる楽しさを共有できれば本当に素晴らしいお祭りになると思っています。

会員の皆様、今年は「元気に楽しくそして無理せず」この会を進めてまいりましょう。ご指導のほどお願いいたします。

尚、2月に開催しました「九博こどもフェスタ」で開発、好評を得ました「タングラムあそび」が“あじっば”で取り入れられました。大人でも本当に楽しめる遊びです。是非一度お出かけください。

例会委員会

委員長 吉村 美和

本年度、会員の皆様が一堂に会する例会を担当させていただきます。昨年までは、各委員会が担当しておりましたが、今まで以上に会員間の交流や意見交換をしていただきたく、例会委員会設立の運びとなりました。

過去2年の例会では、三輪館長、副館長の講話など博物館に密着した内容でしたが、本年度はそれに加えて外部からも講師をお招きしたり、郊外の歴史散策等、また、会員の皆様のご意見も反映しながら、充実した楽しい例会を開催したいと考えております。

一年間宜しくお願いいたします。

*例会開催予定月（H21・10月、1月、H22・3月）

本年度より、九州国立博物館を愛する会「交流委員会」の委員長になりました久保山辰己と申します。前任の川添委員長（本年度より副理事長）に負けないように、一生懸命頑張りたいと思います。

交流委員会では昨年に引き続き、視察研修旅行などを通じて、愛する会の会員の皆様の交流、また会員の皆様と博物館との交流を図っていきたくと考えています。そのひとつに本年度は、多くの方が参加できますように、国内での視察旅行を企画しております。詳細が決まりましたら、案内をいたしますので、是非多くの方のご参加をお待ちしております。

また、昨年開設いたしました、愛する会のホームページの運営も委員会の担当であります。こちらの方も愛する会の活動や、各委員会の事業報告等を速やかにホームページ上に公開し、情報を発信していきます。それから、ブログなども使って、ホームページでも交流ができるようになればと考えています。

最後になりますが、昨年より研究しております通信員制度においては、博物館と地域の方の「かけはし」となるように、本年度は九州国立博物館と連携しながら、実現に向けて進めていきたくと思います。

湯の谷子ども会と花植え・九博見学会

事業委員会 ピッカ美化隊



ピッカ美化隊は6月21日、九博に隣接した太宰府市石坂の湯の谷子供会と共同でポータチュラカの苗を植えました。小1～小6の子どもたち11名と保護者の方10名が参加され、隊員と一緒に和気あいあいと苗を植えていきました。

作業後、九博4階の文化交流展示室に案内、愛する会会員でもある九博展示解説のボランティアさんが“土器”や“はにわ”などを説明し、親子ともども熱心に見学されました。

帰りには、館から600万人入場記念の鉛筆や入場許可証のカードを、又、愛する会からはポータチュラカの苗とバンダナをプレゼントいたしました。参加された子ども会の皆さんは口々に「とても楽しかった」「いい勉強になりました」等々、感想を述べておられました。

子どもたちが一所懸命に植えた“ポータチュラカ”、元気に！可憐に！育ち、きれいな花を咲かせてくれることでしょう。

この企画は、松岡委員長のご尽力もあって実現したものです。今後も、このような子どもたちとの共同作業がもっともっと多くできればと願っております。



国宝 興福寺創建1300年記念

阿修羅展



楠井隆志

(九州国立博物館展示課主任研究員)

7月14日(火)~9月27日(日)

休館日：月曜日(7月20日、9月21日は開館)

九州国立博物館では、7月14日から特別展「興福寺創建1300年記念 国宝 阿修羅展」を開催いたします。九州国立博物館に先立ち開催された東京国立博物館では94万6千人が観覧し(3月31日から6月7日まで)、日本美術展覧会史上の最高記録を更新したことで話題となりました。

この展覧会は、興福寺の創建1300年記念と中金堂^{ちゅうこんどう}再建事業にあわせて計画されました。天平伽藍^{がらん}の復興を目指す興福寺の貴重な文化財の中から、興福寺創建時に埋納された中金堂鎮壇具、天平6年(734)に供養された阿修羅立像をはじめとする八部衆像や十大弟子像、鎌倉復興期に造られた運慶作の釈迦如来像頭部など、65件が展示されます。なかでも阿修羅像は門外不出の特別寺宝とされており、寺外での公開はこれが今世紀最後となるでしょう。

興福寺の阿修羅立像が九州で展観されるのは、もちろん今回が初めてです。八部衆は阿修羅立像をふくむ五体が、十大弟子は四体が展示されます。これら国宝の乾漆像は、興福寺では通常壁面ケースの中に安置され、とくに背面などは観ることができません。この展覧会の見どころは、すべての国宝像がガラスケース越しでなく、露出で、しかも360度からその全容をご覧いただけることです。思い思いの角度から観ることで新たな像の魅力を発見し、存分に堪能していただけます。例えば阿修羅立像の場合、三つの顔を持ちながら四つの耳しかないことなどは背面に回って初めて気付かされます。向かって左側の顔が下唇を噛みしめていることを知り、心奪われる方も多いはずです。ガラスケース越しではないので、乾漆像特有の柔らかな質感、像それぞれで違った表情を見せる個性や繊細な年齢表現などもより間近で感じ取っていただけることでしょう。

九州会場では、八部衆、十大弟子、四天王、釈迦如来と飛天、といった群像の世界も大事にしようと、展示空間と照明のデザインに力を入れました。国宝の乾漆像が静かに立ち並ぶなか、天平時代の美しい祈りの心とかたちに思いを寄せていただき、2mを越える四天王に四方を囲まれた空間を通り抜けて、釈迦如来のいる真っ白で清らかな場所に辿り着くことができます。東京でご覧になった方も、ぜひ九州会場にもお越しく下さい。

東京会場と異なる新たな世界がそこに広がっていることでしょう。



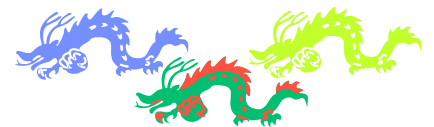
国宝 阿修羅立像(八部衆のうち)
奈良時代・天平6年(734年) 奈良・興福寺蔵

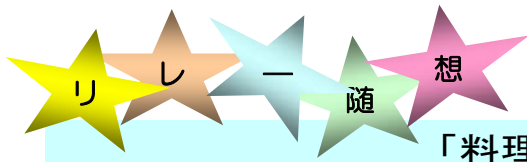


開催日	時間	その他条件	もよおし	会場	問合せ先 (*注1)
7月18日(土) ~7月20日 (月・祝)	11:00~15:00 予定	申込なし	九博夏休み こども向けイベント 「行こうよ! あじっば 夏祭り」	エントランスホール あじっば	D
7月18日(土)~ 特別展会期中 毎週土曜日 (但し7月25日、8月 29日、9月5日を除く)	①11:30~ ②14:00~	申込なし・定員80名	特別展「国宝 阿修羅展」 関連イベント 興福寺僧侶による講座 「天平の文化空間の再構築」	研修室 (7月18日のみ ミュージアムホール)	B
7月20日 (月・祝)	①13:00~ ②15:00~	申込なし	台湾南瀛(なんえい)民族楽団 演奏会	ミュージアムホール	E
7月25日(土)	14:30開場 15:00開演	前売 3,500円(税込) 当日 4,000円(税込)	雅天空コンサート 「天平の風音」	ミュージアムホール	F
7月26日(日)	13:30開場 14:00~15:30	要申込・受付先着順 ※特別展入場券か 半券の要提示	特別展「国宝 阿修羅展」 関連イベント・記念講演会 「興福寺創建と天平文化」	ミュージアムホール	B
8月2日(日)	13:30開場 14:00~15:30	要申込・受付先着順 ※特別展入場券か 半券の要提示	特別展「国宝 阿修羅展」 関連イベント・記念講演会 「国宝 阿修羅像について」	ミュージアムホール	B
8月8日(土)	①13:00~ ②15:00~	申込なし	きゅーはくミュージアムコンサート	ミュージアムホール	A
8月9日(日)	①11:00~ ②14:00~	申込なし	太宰府市民吹奏楽団 「まほろばコンサート」	ミュージアムホール	G
8月23日(日)	13:30開場 14:00~15:30	要申込・受付先着順 ※特別展入場券か 半券の要提示	特別展「国宝 阿修羅展」 関連イベント・記念講演会 「阿修羅像と光明皇后」	ミュージアムホール	B
9月6日(日)	13:00開場 13:30開演	全席指定2,500円	第13回九博朝日寄席 講談/落語「異種」伝統 話芸の'響演'	ミュージアムホール	C
9月26日(土)	①13:00~ ②15:00~	申込なし	きゅーはくミュージアムコンサート	ミュージアムホール	A

※注1

- A 九州国立博物館 NTTハローダイヤル TEL050-5542-8600 (8:00~22:00)
- B 「国宝 阿修羅展」インフォメーションセンター TEL092-712-8231 (平日 10:00~17:30)
- C 朝日新聞社 事業本部西部企画事業チーム TEL092-411-1137 (平日 10:00~18:00)
- D 九州国立博物館 交流課教育普及担当 TEL092-929-3294
- E 臨濟宗 福岡佛光山寺 TEL092-843-2907
- F ムーライトオフィス TEL092-324-7617
- G 太宰府市民吹奏楽団 中川氏TEL080-5605-8949 または 八尋氏TEL090-3605-1923





「料理教室から波紋の広がり」

九博ボランティア 前田 勝男



娘の出産の手伝いで、2ヶ月間ほど女房が家を空けることになった。

丁度そのころ男性料理教室の募集をしていたので、早速申し込みました。 さあ、大変！！

最初の内はとまどいばかりで、材料の切り方、米のとぎ方、ご飯の炊き方、はたまた青物野菜の茹で方など・・・何も解らない私でした。 「人参は乱切りにするとですよ」。ン??乱切り?・・・専門用語?が飛び交います。

「乱切りって、どんな切り方ですか・・・?」

「乱切りとはね、乱れると書くでしょう?」と言い、体をクネクネさせながら表現し、「こんな風に切るのよ・・・。」と、明るく、親切に先生から教わった。 今、家ではもっぱら食材に小麦粉をつけて油で揚げたり、又、炒めたり、出来上がった料理を皿に盛り付けたり・・・等々楽しく女房の助手?をしております。 最初で最後、今までに1回だけつくりました。 ジャーン!!『イワシの蒲焼』です。たかがイワシ、されどイワシ、そのイワシを開くのに一苦労。何と、クシャクシャ・・・!。とうとうヘルプ・・・。

出来上がった味は抜群で、美味しいのなんのって。レシピ通りの出来栄えに大満足でした。料理を始めたことで、人との繋がりができたこと、そして色々なことに参加して、又その輪が広がり、それが楽しくて九博ボランティアをするきっかけになりました。

来館者の皆さんに「また 来るからね」と言っていただけのようなボランティアを目指していきたいと思っております。

さて?さて?いつの日か

『人に食べていただけるような料理を作る日が来るのでしょうか・・・?』



編集後記



「愛する会」も2年たちアクトも8号になりました。2年の活動の中から様々な問題点や反省点も浮かび上がってきましたが、愛する会はそれらの問題から目を逸らさず、真摯な議論を重ねる集団です。執行部も2年の任期を終え、新たな執行部の新鮮な思いがこれからの愛する会をまた力強く盛り上げてくださるものと思います。九博とより親密に連携し、博物館が市民の皆様の生活の中に生き生きと息づく「かけはし」となれる事を願わずにいられません。 (S.F)

